



## 人生万事塞翁が馬

千葉県支部支部長 植木 幸裕 (機械工学科・1975卒)

2025年6月、前支部長新海さんの退任に伴い、新支部長に就任した植木でございます。機械系同窓会の先輩から、今度千葉県支部総会があるからちょっと顔だけ出してくれと誘われたのが2014年。総会が終わってみればなぜか会計担当幹事となっていて、それから11年間、3人の支部長さんに会計担当として仕えてきました。そして気が付けば私が定年(就任時年齢77歳以下)未満の最高齢者となっていて、立候補した訳でもないのに支部長に祭り上げられていました。

振り返ってみれば学生時代、1部体育会会長に就任した時も、校友会機械系同窓会会長に就任した時も同じような状況でした。

このような時、いつも頭をよぎるのが「人生万事塞翁が馬」という言葉です。私が「塞翁が馬」という言葉に初めて出会ったのが高校の漢文の授業の時、それ以来ずっと私の座右の銘の一つとなっています。

ご存じの方も多いと思いますが「塞翁が馬(さいおうがうま)」は、中国の古典『淮南子(えなんじ)』に由来する言葉で、「人生の幸・不幸は予測できない、何が良いことか悪いことか分からない」という意味を持っています。

物語の内容は「塞の国の翁(おきな)が飼っていた馬が逃げて居なくなりましたが、ある時、その馬が駿馬を連れて戻ってきた。喜んだ翁は息子にその駿馬を与えて楽しく過ごしていたが落馬して大怪我をしてしまった。そのころ塞の国と隣の胡の国との間で戦が始まり、村の若者は皆戦に駆り出され多くの若者は帰らぬ人となったが、大怪我をした翁の息子は戦に駆り

出されることはなく、無事に過ごした」という故事です。不幸な出来事があったからこそその後の幸が訪れ、またその幸があったが故にその後の不幸に見舞われたというもので、日本の諺で「禍福はあざなえる縄の如し」と非常によく似た意味を持っています。

ここで重要なことは、幸不幸が訪れた時に一喜一憂するということは勿論ですが、人生の岐路に立った時は、じっくりと後先のことを考え、考え抜かれた結果として進んだ道であれば、それがたとえ不幸な結果になろうとも後悔はしないであろうし、この不幸があったからこそ訪れる幸もあるかも知れないし、必ずあると信じる事が出来るということです。

人生の岐路というほど大げさなものでもなく、大小様々な決断を迫られる場面は人生のあちこちに転がっていますが、その場面、その場面で確固たる信念に基づいて決断し、行動すれば後悔の無い人生を送れるのではないかと考えています。

12年前に千葉県支部総会に騙されたような格好で参加したことが不幸なこととは思ってはいませんが、あの時、ちょっと顔を貸せと言われて顔を出していなかったら、その後に出会った千葉県支部の素晴らしい人々と知り合うこともなかったし、支部活動に係わっていたかどうかさえ分かりません。そう思いながらこれまでの人生を振り返ると、「何と奇跡の連続で今があることか」という感じがしてなりません。

時間を巻き戻すことは出来ません。事に当たっては後悔をすることが無きよう、信念を持って行動すれば、後はケセラセラ(なるようになる)、塞翁が馬を信じましょう。

高齢者川柳  
免許証  
いつ返そうか  
思案橋

### 第71回千葉県支部 報告会兼意見交換会と 懇親会開催ご案内

日時: 令和8年6月6日(土) 14:00開会  
会場: 船橋市勤労市民センター 船橋市本町4-19-6  
☎ 047-425-2551 HP <http://funabashi-ksc.or.jp>  
交通: JR船橋駅 南口徒歩5分 京成船橋駅 東口徒歩3分  
会費: 5,000円(懇親会費として) 懇親会会場: すし土風炉 船橋店

◎当日のスケジュール 1. 報告会兼意見交換会 14:00~16:00 2. 懇親会 16:30~18:30

報告会兼意見交換会と懇親会にご出席頂ける方は、6月2日までにメールまたは電話でご連絡ください。

【連絡先】 メール: [chiba@kogakuin.or.jp](mailto:chiba@kogakuin.or.jp) 電話: 090-8040-0849 (植木携帯)

誠に恐れ入りますが、報告会兼意見交換会にご出席できない方は、年会費を同封の払込取扱票にてご送金ください。その際、通信欄にメールアドレスをご記載いただければ、そちらに支部報告会兼意見交換会のみならず、各種行事の案内状を配信させていただきます。

支部からの案内は校友会のホームページ『校友会HP⇒支部活動⇒支部掲示板⇒千葉県支部』からもご覧いただけます。

# 千葉県支部報告

## 1. 支部報告 (植木 幸裕)

### ・第70回千葉県支部報告会兼意見交換会と懇親会

令和7年5月31日、船橋市勤労市民センターで第70回千葉県支部報告会兼意見交換会を実施した。支部では毎年、校友会本部の社員総会（毎年5月の最終日曜日）が開催された直後の土曜日に開催することとしている為、今回は5月の開催となった。来賓として、後援会から前後援会会長で現千葉支部顧問の市川貴之様、本部支部組織部から森田保様、専門学校同窓会から櫻井良尚様、東京支部から吉田信吾副支部長様、埼玉県西支部から秋田彰一参与様、埼玉県中央支部から広瀬竜也副支部長様のご列席を頂き、総勢16名での開催となった。

報告会に先立ち、令和6年10月4日にご逝去された元千葉県支部長内山太様のご冥福を祈り、黙とうを捧げた後に、新海前支部長より「内山さんを偲んで」の追悼講話があり、植木新支部長の挨拶に続き、ご列席頂いたご来賓の方々からご挨拶を頂いた。

報告会では令和7年度から2年間の役員に就任（巻末の役員名簿参照）した役員の紹介と挨拶、令和6年度をもって退任される役員（新海支部長、古澤副支部長、長谷川幹事、岩本幹事）の紹介と挨拶が行われた。

報告事項については、支部会報（NO.29）に基づき、各担当より報告がなされた。母校の近況報告では、学園執行部と3会（評議員会、後援会、校友会）との4年に渡る対立問題に対する経緯と結末について説明され、多くの質問と意見が出された。

報告会終了後は近くの宴会場に場所を移して、ご来賓の方々も含めて歓談し親睦を深めた。



千葉県支部報告会兼意見交換会の議長 右から 植木支部長、古澤さん



左から 古澤さん、筆者、櫻井さん、岩本さん



左から 長谷川さん、新海さん、森田さん、広瀬さん

### ・芋掘り&BBQ大会

千葉県支部恒例の芋掘り&BBQ大会を11月1日（土）に佐倉市の「佐倉草ぶえの丘」で開催した。毎年天候にはヤキモキさせられるが、今年も前日の大雨で芋掘りが出来ないのではないかと危ぶまれたが、当日は朝から晴天。いつも楽しみにして頂いている他支部からの参加者や、お子さん連れの家族参加の方々総勢22名でのアットホーム的な華やいだ大会となった。

例年より開催が2週間ほど遅かったせいも、去年よりかなり大きなシルキースイーツがザックザク。見込みの約1.5倍の収穫の為、持ち帰りに苦労するほどだった。

芋掘りの後は園内にある施設でのBBQ大会。肉や海産物、野菜に焼きそば等子供さんも焼き手となって楽しいひと時を過ごすことが出来た。



後列左から 吉村さん、大日向さん、岩本さん、成田さん、古川さん、長谷川さん、古澤さん  
前列左から 吉田さん、広瀬さん、秋田さん、市川さん、筆者、櫻井さん、森田さん、鈴木さん、新海さん



お父さんまだあるよ!



リヤカー満載こぼれそう



掘ったぞ〜



そろそろ焼けたかな?



飲んでばかりいないで食べて食べて～



思い思いに語り合うBBQ風景



皆さんお疲れ様でした!

### ・支部新年会

千葉県支部では毎年1月の最終土曜日に新年会を開催している。これまでは西千葉にある「鯨割烹みどり」で行っていたが、西千葉駅周辺地域の再開発の為、移転先である海浜幕張のホテルグリーンタワー幕張の「日本料理みどり」に会場を移して装い新たな新年会となった。

今回初めて支部デビューとなった会員の方を含め、14名での新年に相応しい新年会となった。



後列左から 河合さん、古川さん、長谷川さん、成田さん、岩本さん、  
吉村さん、古澤さん、井坂さん  
前列左から 新海さん、東さん、大日向さん、寺岡さん、佐藤さん、筆者

### ・新企画「卒後10年、今何してる？」中止

今年度の新企画として、丁度10年前（2015年）に学部を卒業して千葉県内に在住している会員に集まって頂き、今どき様な仕事をしているのか、仕事上の困っていること、悩みごとなどを話してもらい、皆で話し合おうという企画だったが、参加者が集まらず中止となった。

このイベントの目的は、第一義的には若返りによる校友会の活性化だが、この135年の歴史ある工学院、全国に約70,000人、千葉県だけでも4,000人とされる校友との人脈作りを通じて、仕事面に生かすばかりではなく、豊かな人生を送るきっかけ作りになればと企画した。

今回の対象者は約30名程だったが、来年度以降も計画して行こうと考えている。

## 2. 令和7年度全国支部長会の報告

（前支部長 新海 昌美）

令和7年5月24日（土）13：00～16：00 新宿校舎3Fアーバンテックホールにて開催。

進行・司会は支部組織部、荒井氏で進められた。

全国支部長会 次第と内容は以下の通り。

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 開会宣言         | 支部組織部 中里部長    |
| 2 校友会会長挨拶      | 校友会会長 小澤和重    |
| 3 来賓挨拶         | 本学理事長兼学長 今村保忠 |
| 4 校友会理事・監事の紹介  | 支部組織部 荒井翔平    |
| 5 支部組織部 部員の紹介  | 支部組織部 荒井翔平    |
| 6 令和7年度新任支部長紹介 | 支部組織部 荒井翔平    |

紹介された新支部長は以下の通り。

- |         |              |
|---------|--------------|
| 東京支部長   | 小口俊明（高校1977） |
| 群馬県支部長  | 中沢義徳（建築1978） |
| 鹿児島県支部長 | 国師博久（建築1978） |
| 岩手県支部長  | 熊谷教央（電気2005） |
| 三重県支部長  | 坂口雅昭（機械1977） |
| 湘南支部長   | 菅野博之（建築1980） |
| 新潟県支部長  | 玉井俊光（電気1989） |

### 7 校友会創立125周年記念誌完成見通しと概要紹介

125周年記念誌編集委員 高木雅行

記念誌は正会員に郵送予定とのこと。

### 8 校友会報2025年版（最新版）完成報告

今回出席者に配布。

### 9 財務部より報告 財務部長 徳田博文

年会費納入のお願いとクレジット決済の紹介。

年会費は支部へ「支部活動交付金」として還元するとともに、学園への援助（新宿祭、八王子祭、夢工祭、ホームカミングフェス 等）及び学生活動の助成として運用。

年会費の集金方法

- (1) 振込用紙による送金
- (2) オンラインクレジット決済
- (3) コンビニでの振込

など選択肢が増えた。

### 10 全国大会・高知大会の報告 高知県支部 磯久毅

2024年11月9日、高知県立県民ホールで開催された高知大会の様子を報告した。

### 11 集合写真

休憩を挟んで、集合写真撮影を行った。

### 12 「意見交換・質疑応答」が行われた。

### 13 アンケート集計結果報告

毎年校友会から支給されている支部交付金（支部活動費）について、支部組織部が実施したアンケート結果が報告された。

アンケートは49支部中44支部から返信があった。

アンケート内容と回答は下記の通り。

#### (1) 支部交付金について

現状支給の金額でよい	21支部
不足している	22支部
回答なし	1支部

不足している場合、その補填方法が支部から報告されている。そこには、どの支部も会員集めと会費集金など、同じように苦労している内容が書かれている。

#### (2) 交付金の用途についての回答

会員同志のゴルフや親睦会と親睦会開催通知の通信費（はがき代）など多岐に亘っている。

#### (3) 交付金が50%増額されたと仮定し、効果的に実施したい行事があれば記入

この問いかけにも、多岐にわたり、回答があった。どこの支部も親睦を深める催しを希望している。

#### (4) 全国支部長会について

現状通りの対面が良い	20支部
オンラインが良い	4支部
ハイブリッドが良い	22支部

#### (5) 新春の集いについて

現状でよい	23支部
首都圏を除く地方の支部長を 交通費支給で招待	13支部
その他	6支部
無回答	2支部

#### (6) 令和12年（2030年）全国大会について

立候補します	0
さらにその先なら考える	5支部

立候補しません 38支部

回答なし 1支部

### (7) 全国大会について

意見が多数寄せられた。

## 3. 2025年度校友会定時社員総会の報告

(植木 幸裕)

2025年度の第13回定時社員総会が、2025年5月25日（日）9:30より対面とTeamsによるハイブリッドで、新宿キャンパス3階アーバンテックホールの会場とリモートを繋いで開催された。

参加有資格者の第5期代議員113名中、会場57名、リモート8名の計65名の出席だった。来賓の今村保忠理事長兼学長からの挨拶の後、小澤和重会長が議長を務め、会議が開催された。

議案は令和6年度決算書承認の件と第6期理事・監事選任の件の2議案で、いずれも賛成多数で承認された。理事・監事の任期は、2025年5月25日～2027年5月23日の2年間。承認された第6期理事・監事と役職は以下の通り。

会長	代表理事	小澤和重	1973年	電気工学科
副会長	代表理事	白井精滋	1973年	工業化学科
理事	総務部長	久慈英樹	1977年	化学工学科
理事	財務部長	徳田博文	1975年	電気工学科
理事	広報部長	佐藤弘規	1999年	建築学科
理事	同窓会組織部長	久保直紀	2012年	機械工学科
理事	支部組織部長	中里利男	1979年	電子工学科
理事	学園連携部長	箕谷祐也	2004年	情報工学科
理事	財務部副部長	小林一之	1984年	建築学科
理事	財務部副部長	河野工	1974年	建築学科
理事	広報部副部長	島田浩行	1983年	生産機械工学科
理事	同窓会組織部副部長	飯田雅弘	2005年	電気技術科
理事	支部組織部副部長	荒井翔平	2009年	高校普通科
理事	学園連携部副部長	坂口教子	1999年	機械工学科
監事		植木幸裕	1975年	機械工学科
監事		熊倉強	1978年	電子工学科
監事		高木雅行	1979年	建築学科
事務局長		上野耕平	1973年	電気工学科

審議後、令和6年度事業報告や令和7年度事業計画及び令和6年度予算報告等の報告事項6件が報告された。

総会では、理事就任3期6年を務めて退任する平山徹夫氏、櫻井良尚氏及び6年以上支部長を務めて退任した工藤一博前岩手県支部長、増山英樹前鹿兒島県支部長、椋田實前東京支部長、秋田彰一前埼玉県西支部長の各氏に感謝状が贈呈された。

# 令和7年度会計報告及び令和8年度予算（案）

会計年度期間：4月1日より翌年の3月31日迄

収入の部				支出の部			
科 目	7年度収支予算	7年度収支決算	8年度収支予算案	科 目	7年度収支予算	7年度収支決算	8年度収支予算案
前年度繰越金	525,791	525,791	521,277	報告会兼意見交換会会費	100,000	80,337	100,000
年会費	144,000	102,000	144,000	忘新年会費	172,000	91,000	172,000
報告会兼意見交換会会費	100,000	80,000	100,000	支部行事費(芋掘り、居合抜身体験会)	96,000	97,500	96,000
新年会会費	140,000	98,000	140,000	支部行事費(卒後10年会)	0	0	60,000
忘年会会費	32,000	0	32,000	役員会費(会場使用料等)	0	9,847	0
支部行事開催参加費	76,000	73,000	116,000	広告・渉外費	0	0	0
役員及び各種会費	0	0	0	他支部参加費	25,000	15,000	25,000
支部割戻金	90,000	90,000	90,000	会報作成費	165,000	143,000	165,000
祝儀	0	0	0	通信費(案内状)	74,000	77,313	77,000
寄付金	73,000	73,500	75,000	交通費	15,000	6,902	15,000
雑収入	35,000	468	10,000	文具費	2,000	583	2,000
受取利息	0	0	0	寄付金	0	0	0
				予備費	10,000	0	10,000
				その他	0	0	0
				小計	659,000	521,482	722,000
				次期繰越金	556,791	521,277	506,277
<b>合計</b>	<b>1,215,791</b>	<b>1,042,759</b>	<b>1,228,277</b>	<b>合計</b>	<b>1,215,791</b>	<b>1,042,759</b>	<b>1,228,277</b>

## 財産目録

令和8年3月31日現在

預貯金	ゆうちょ銀行普通預金	521,277
	ゆうちょ銀行振替口座	0
現金		0
資産合計		521,277

## 会計監査報告書

令和7年度（令和7年4月1日より令和8年3月31日迄）の収支決算書及び令和8年3月31日現在の財産目録につき関係書類等により監査したところ適正であるものと認める。

令和8年4月5日

会計監査 成田 忠志

## 令和7年度事業活動報告(概要)

- 4月 5日(土) 千葉県支部 2024年度会計監査
- 5月 22日(木) 千葉県支部会報NO.29発刊 会員に郵送
- 5月 24日(土) 全国支部長会 新宿校舎
- 5月 25日(日) 定時社員総会 新宿校舎
- 5月 31日(土) 第70回千葉県支部報告会兼意見交換会&懇親会  
報告会兼意見交換会 船橋市勤労市民センター  
懇親会 船橋市「すし土風炉 船橋店」
- 6月 22日(日) 体育会連合OB・OG会 創設35周年記念大会 新宿校舎
- 6月 28日(土) 千葉県支部幹事会 HP業務引継ぎ 千葉市
- 6月 30日(月) 千葉県支部支部幹事会 会計業務引継ぎ 市原市
- 8月 31日(日) 他支部間交流 東京支部報告会参加 新宿校舎28階会議室
- 9月 6日(土) 他支部間交流 埼玉県支部講演会兼懇親会参加 ウェスタ川越
- 9月 19日(金) 「卒後10年、今何してる?」の会場視察 千葉駅近傍貸会議室
- 10月 25日(土) 他支部間交流 茨城県支部秋のイベント参加 日本酒列車の旅(水海道～下館)
- 11月 1日(土) 芋掘り&BBQ大会 佐倉草ぶえの丘
- 2026年
- 1月 11日(日) 校友会新春の集い2026 新宿校舎アトリウム
- 1月 31日(土) 千葉県支部新年会 ホテルグリーンタワー幕張 「日本料理みどり」
- 3月 14日(土) 千葉県支部新企画「卒後10年、今何してる?」 千葉市(中止)

2025年度は近隣3支部の報告会やイベントに参加し、交流を深めることができました。

## 令和8年度事業計画(案)

- 4月 5日(日) 千葉県支部 2025年度会計監査
- 5月 22日(金) 千葉県支部会報NO.30発刊 会員に郵送
- 5月 30日(土) 全国支部長会 新宿校舎
- 5月 31日(日) 定時社員総会 新宿校舎
- 6月 6日(土) 第71回千葉県支部報告会兼意見交換会&懇親会  
報告会兼意見交換会 船橋市勤労市民センター  
懇親会 船橋市「すし土風炉 船橋店」
- 6～9月 他支部間交流(5支部予定)
- 9月 12日(土) 「卒後10年、今何してる?」
- 10月 3日(土) 芋掘り&BBQ大会 佐倉草ぶえの丘
- 12月 5日(土) 千葉県支部忘年会
- 2027年
- 1月 10日(日) 校友会新春の集い2027 新宿校舎アトリウム
- 1月 30日(土) 千葉県支部新年会  
ホテルグリーンタワー幕張 「日本料理みどり」
- 2月 1日(月) 千葉県支部会報NO.31  
原稿執筆依頼、収集開始

本年度も近隣支部の報告会などに参加し、交流を深める予定です。

# 馬で世界を観て廻る ～アフリカ・ケニア編～



(化学工学科・1969卒) 岩本 博行

法定接種義務の黄熱病、怪我を心配しての破傷風、2種類の予防接種を済ませ、さらに効果が出るのに数週間掛かる抗マラリア薬を飲み、ケニア大使館に赴いて入国ビザを発行してもらい、着々とアフリカ渡航に備えた。

2009年9月27日、再雇用期間も終え、完全フリーになった身ではるかアフリカへと旅立った。経由地アムステルダムで一泊した後さらに飛ぶ。合計約20時間のフライトで、ケニアの首都ナイロビに降り立った。高層ビルこそ無いが、3～4階建てのビルが立ち並び、道路には車が縦横に走り、多くの人々が行き交い、東アフリカ最大の都市として十分な機能を果たしていた。ホテルのエレベーターは手動で開閉するタイプで、ビルの古さが表れていた。1963年の独立以前のイギリス統治下時代に建てられたと思われる。

翌日、郊外のプライベート的な飛行場から操縦席を含めて8席程度の小型飛行機で、さらに奥地へと飛び立った。上空から滝が見えれば、パイロットがぐっと下降して滝に寄せてくれるなど、まさにプライベートフライトだった。約1時間後、サバンナをただ伐採してフラットな平原にしただけの滑走路に着陸した。滑走路は舗装なし。ターミナルどころか管制塔もなし。吹き流しが垂れているポールが1本立っているだけ。

飛行機から降りても日陰がなく、翼の下でアフリカの強烈な日差しを防ぐだけだった。

しばらくして迎いのジープが現れた。客用座席など無い。荷物と一緒に幌のない荷台に乗せられて、林の中に行く。早速、シマウマの群れと遭遇。彼らを追い回すような形で



夕日のサバンナへ駆け出す！

ジープは走る。そのうち目の前に群れからはぐれた象の親子。まさに柵の無い動物園の始まりだった。

到着した宿は、ホテルと言うより富豪の別荘という趣。さらに、離れのような別棟が我々の宿。ベッドには白いレースのような蚊帳が下がっている。一見豪華に見えるが、やはり夜は虫が多いのだろう。広い庭にはプールもあるが、とても裸になってアフリカの熱射に肌を晒す気にはなれない。プールサイドの休憩スペースのハンモックで旅の疲れを癒した。強い日差しが少し優しくなったところ、ようやく馬とご対面。アラブ種で日頃乗っている馬と変わらないので違和感はない。いよいよ、アフリカのサバンナへ駆け出す。もちろん柵などない。シマウマの群れが逃げ出し、キリンが長い首をこちらに向け、「何者？」と怪しんでいる。草むらからは、白いお尻が印象的なガゼルの群れがぴょんぴょん飛び出し、逃げ回る。日本人から見れば鹿の仲間としか分からないが、肉食動物から逃れるための能力を持つその俊敏さは鹿の比ではないように思われる。さらに、角が少し内側に曲がっているインパラ、まっすぐな角のオリックス、肉食動物と対峙するのだろうか大型であり動き回らないカモシカの仲間のウオーターバック、同じ大型種でも角が曲がっているイランドなどなど、角の動物だけでも次々と現れ、ガイドに説明されないと区別がつかないほどである。

翌朝は暗い内に起こされる。アフリカの乗馬ツアーは、動物たちの活動時間帯に合わせるのである。取り敢えず



日陰は翼の下だけ

ッキーとミルクだけ腹に納め、馬に跨る。またまたシマウマの群れを蹴散らし、キリンを追いかける。

宿に戻り、遅めの朝食の後、今度はジープで象の群れを探しに行く。象を怒らすと、馬では逃げ切れないからのようだ。はぐれ親子やはみ出された若い象の群れとは違う、大集団の象の群れに出会った。子象も多くいるからかボス象がこちらを警戒している。少し離れた場所から見学だ。しかし、間に柵は無い。怒りだしたら逃げ出す態勢の見学だ。



子象を護って睨む象の集団

宿に戻ってランチの後は、今夜のキャンプ地に出発。昼はさすがに動物たちに遭わない。到着したキャンプ地は、ゲートや柵など無い。ただの平原。透き通ったテントは、夜空を見るにはいいが、こんな貧弱なテントで野獣に襲われたらどうするんだろうと、心配もにじむ。夕食時の焚火が夜通し焚かれて、現地人スタッフが交代で寝ずの番をしてくれていた。遮るものがない翌朝の朝焼けが美しかった。

ホテルに戻った晩には、見られれば超ラッキーと言われるBad-eared fox (コウモリミミギツネ) を見に原野へ。そつと希少動物の生態を覗かせてもらった。

翌日は、次の宿泊所へ出発。途中、赤道直下が売りというマーケットに立ち寄って、初めてのお土産買い。辿り着いた宿は、傾斜地をふんだんに利用したリゾート施設並みの



いざ、キリンと競争！

ホテル。荷物は現地人ポーターが頭に乘せて運んでくれるが、坂の下の方は遠慮して、なるべくフロントや食堂に近い坂の上の方の部屋に代えてもらった。アルコール飲み放題のランチ、3時のティータイム、贅沢を尽くして夕刻、馬の上の人となる。サバンナを走れば、大型のウォーターバックがこちらを警戒して佇んでいた。宿に戻ってディナー前の暖炉のあるルームでの語らい。小腹も減っていて、つつつつまみに手を出し、食前酒をお代わりしてしまったが、これが大失敗。呼ばれて向かった食堂では、豪華な料理が並ぶ。宿のオーナーや他の客と同席だったが、おなかがいっぱいでも食欲が出ずに閉口した。欧米人の身体の大きさをいやというほど実感させられた。

翌朝の乗馬タイムでは、3頭連れのキリンの親子と競争。追いつけるはずもなかったが。昼のジープでの見学タイムでは、水飲み場で象の親子と顔面遭遇。あまりに近く、恐怖が襲ったが、じっとしていたので、象たちは水を飲んだあと静かに引き上げていった。

翌日は二度目のキャンプ地に出発。珍しく小高い山を越えていく。途中、虹が見え、まさに虹のかなたへの旅だった。草色の毛並みのサルが木の上から、親離れた孤高キリンが高樹の向こうから、穏やかな顔で我々を見送ってくれていた。水辺のキャンプ地では、シャワーテントや食堂テントも張り、前のキャンプに比べると、かなり安心感のあるサイトであった。

最終日は動物管理保護区に向かった。水牛、サーバルキヤット、シロサイ、クロサイ、大型のウォーターバックなどが目の前。保護に慣れてか、人を恐れるふうもない。最後にはライオンの兄弟がシマウマを襲うハンターぶりを目の前で披露してくれた。口のまわりを血だらけにして獲物をむさぼり、骨を砕く音がすぐそこに聞こえた。あたかも、柵の無い動物園のファイナルショーのごとくであった。

再び赤土の滑走路から小型飛行機でナイロビに飛び立ち、野生の楽園を後にした。皆様もぜひケニアに行ってください。野生動物が待っていますよ!!!



今日の獲物はシマウマ！

# 近隣支部行事に参加して

## 令和7年9月6日、埼玉県西支部の講演会兼懇親会に参加しました

(機械工学科・1975卒) 井坂 隆一

埼玉県川越市のウエスタ川越で開催され、23名が参加しました。久慈支部長の開会挨拶の後、講師の紹介があり、講演会が開催されました。

講師は、昭和33年に工学院大学高等学校電気科を卒

業された、花上 嘉成氏です。昭和34年に東武鉄道に入社後、車両部西新井工場勤務を皮切りに、本社車両部、七光台研修区長、人事部、大宮・北千住・浅草の各駅長を歴任しました。平成9年に東武博物館へ出向し、東武博物館の館長・専務理事・名誉館長に就任し、平成30年に退館されました。

小さいころから鉄道が大好きで、昭和30年代の新宿駅と甲州街道の路面を走る京王電車などの写真を説明してくれました。路面を走る姿は、まるで現在の都電荒川線の風景のようです。甲州街道の両側は5階建てのビルがちらほらと散見される状態でした。鉄道マンの思い出と電車のお話を一時間語っていただきました。その後、懇親会に移り、美味しいビール、お酒とおつまみを頂戴しました。



埼玉県西支部の講演会兼懇親会の参加者一同

## 8月31日（日曜日）、「東京支部報告会」に出席しました

(電気工学科・1970卒) 新海 昌美

13時より、工学院大学校友会会議室で「東京支部報告会」が開催されました。東京支部は大きな組織という感想をもちました。支部の中にサークル（囲碁、詩吟、俳句、写真、健康麻雀、歴史実験、ボーリング、社会見学）があり、そのサークルの活動報告がありました。

第2部は別の会議室で「カナルトリオ」のライブ演奏会がおこなわれました。東京音大卒のトロンボーン奏者、桐朋学園大卒のホルン奏者、国立音大卒のトランペット奏者の女性だけのトリオによる軽快な管楽器演奏を楽しませていただきました。

第3部は「新宿エステック情報ビル」ワイズ（Y's）に移動して立食形式で懇親会がおこなわれま

した。最後に来賓の挨拶があり、千葉県支部として、恒例の「芋掘り&BBQ」の開催と千葉県支部会報のPRをしてきました。



「東京支部報告会」参加の皆様

高齢者川柳

船頭さん

昔六十で

おじいさん

## 茨城県支部の『日本酒列車の旅』に参加しました

(電気工学科・1971卒) 古澤 良夫

10月25日(土)、茨城県支部主催の関東鉄道常総線『日本酒列車の旅』に参加しました。今回は、前回(2018年)の『ビール列車の旅』に次いで2回目の参加です。参加者は、石川支部長はじめ10名でした。当日は気温も低く小雨が降るあいにくの天気でしたが、列車の旅なら問題なし。

11時15分に、常総線特有のディーゼルエンジンの音が響き渡り、水海道駅から下館駅迄往復約2時間半の列車の旅がいよいよスタートです。

テーブルには、地元の竹村酒蔵店から一合升が付いた2本の清酒とおつまみ弁当が提供され、缶チューハイが飲み放題となっていました。列車の旅ゆえに、多くの方々と歓談するというわけにはいきませんでした。両隣の方と会話が弾み、楽しいひとときを過ごすことができました。

前は好天に恵まれ、黄金色の広大な関東平野を眺めることができましたが、雨に煙る晩秋の関東平野も、これまた味わい深いものでした。



車内の様子



水海道駅にて参加者一同

## 母校の近況

(資料提供：学校法人工学院大学／文責：機械工学科1975年卒 植木幸裕)

### 大学志願者数の復帰

2021年5月以降、大学キャンパスのリニューアル計画の進め方や内容をめぐる執行部と一部の理事・監事の対立に端を発した執行部と3会(評議員会、後援会、校友会)との対立問題は、2025年6月をもって解消することが出来、従来の信頼関係を取り戻すことが出来たことは喜ばしい限りである。

この間、大学の入学者数は2021年度から毎年1,500名前後でほぼ横這いだが、大学の志願者数は2022年度の約22,500名から2024年度は約3,000名減となった。全国紙でも報道されたこの対立問題が原因か、或いは少子化によるものかは定かではないが、2025年度の志願者数が約22,200名に復帰したことには一先ず安堵した。

### 工学院大学学生チャレンジ活動奨励金制度

大学では2024年度より「工学院大学学生チャレンジ活動奨励金」制度がスタートした。

学生プロジェクトなど既存の活動とは別に、新たな企画に対して支援するもので、2025年度は第一期・第

二期募集にて採用された計4企画が工学院大学を盛り上げる為に活動している。

「大学でしかできない、新しい挑戦がしたい」「アイデアはあるけれど一歩踏み出せない」そんな志を持つ学生を、大学がサポートする制度で、学生の創造性あふれる活動を実現する為に資金援助を行うもので、夢やアイデアを机上の空論で終わらせず、具体的なプロジェクトとして実行に移す為の貴重な機会を提供している。

この制度の対象となるのは

- ・多くの学生に刺激を与える活動
- ・学内外にアピールできる活動
- ・学生生活を豊かにする活動
- ・その成果や頑張りが大学全体にフィードバックできる活動

といったような活動に対して支援するものだ。

申請金額は10万円からで、個人でも応募でき、あらゆる分野の活動を対象としている。

◆回収リンを用いたサツマイモの栽培とそのサツマイモからつくるクッキーの開発に取り組むプロジェクト。環境化学科・資源循環工学研究室が研究する「下水汚泥焼却灰からのリン回収技術」の社会実装を目指し、新潟大学農学部と協働して取り組んだ。

◆地域の子供達や学生にもものづくりの楽しさを伝える活動。木工体験教室『木工学院』を八王子キャンパスで開催した。

◆建築をテーマに議論・調査を行い、その成果を展示するリサーチプロジェクト。「重伝建を動かす」をテーマに、「重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、江戸時代の町家や港湾施設が残る日本遺産の港町・広島県鞆の浦を対象に、分野の異なる4班がそれぞれの視点から現地調査を行い、鞆町街並み保存拠点施設「鞆てらす」にて展示会を開催した。

◆1/20の暮らしを探そう！「君たちだけの小人図鑑」。建築に興味を持つ小中学生を対象に、1/20スケールの“暮らし”を探るワークショップを企画しているプロジェクト。体感を通して建築への興味に繋げる。

以上のような学生達の自主的なチャレンジ活動が大学の資金面での支援で実施されている。

### ソーラーカーチームの活躍

支部会報でも何度か取上げてきたソーラーカー学生PJ（プロジェクト）だが、2025年に開催されたBWSC（ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ）でも好成績をあげた。

2025年8月、オーストラリアで2年に1度開催されるBWSC世界大会に今回も参戦。BWSCは1987年から始まった歴史あるソーラーカーレースで、オーストラリア大陸の北部ダーウィンから南部アデレードまでの約3,000kmを、太陽光のエネルギーだけを原動力に約6日間かけて縦断する過酷で激しいサバイバルレースだ。今回は世界17の国や地域の大学や研究機関等から34チームが参戦し、チャレンジャークラス13位（日本勢では東海大に次いで2位）の結果を残した。

教育の一環でもある学生PJが今回掲げたスローガンは『Designed by Kogakuin, Built at Kogakuin』。設計や製作の一部を外部の企業等に依頼しているチームが

多い中、「設計から製作まで、可能な限り全てを学内で完結させ、学生自身が活かした技術や、計画的にPJを遂行する力を身につけることこそが本PJの核心」と胸に刻み、学部1年生から大学院修士2年生までの総勢39名が7号機「Cygnus（シグナス）」でレースに挑んだ。今回設計を担当したのは学部2年生で、完走率が低い約3,000kmのサバイバルレースを完走した。

また、大会は海外で行われる為、大会に向けての準備や手配はどうしても上級生や大学院生が中心となっていたが、今大会は8割以上が学部3年生以下のメンバーで占められ、車体ボディーのカーボン成形や金属加工等は大学施設を活用しながら学生自らがを行い、車体製作から輸出入、参加メンバーの航空機チケットや宿泊先の手配など、殆ど全てを学生達だけで行ったことも今大会の特徴である。

チームを襲った困難は、レースが始まる前から学生達を翻弄した。悪天候による大幅な船舶の遅延で15日間もメルボルンの港で足止めをくらい、学生達は自ら港の業者と交渉してどうにかCygnusを受け取り、すぐさまメルボルンからレース出発地点のダーウィンまでの約4,000kmを3.5日で移送。落ち着く間もなくサーキットでの安全点検、公道試走、予選を経て、いざ本選へと歩を進めた。そしてレース開始のフラッグが振られてからも幾度となく完走断念の危機に直面した。

レース4日目、運転席を上から覆うキャノピー（風防）を開閉するヒンジが壊れてしまい、運営側からこの時点でリタイアを宣告され、一時は大会公式HPで「工学院大学リタイア」が報じられてしまった。しかし、車体の殆ど全てを自分達で作製してきたという強みで現場での修理に加えて今後の走行が可能であるというアピールを粘り強く運営側と交渉を重ね、レース継続をなんとか勝ち取った。

レース5日目、天候は大陸特有の強烈な雨風に低温が加わり、一気に荒れ模様となり発電量はほぼゼロ。前方が見えないほどの水しぶきの中でレースの続行を余儀なくされた。

レース最終日は、竜巻や突風、雷雨のため地元気象局からも警報が出るという最悪の天候の中、最後の約240kmをほとんどエネルギー残量がない状態で駆け抜



新車体「Cygnus(シグナス)」



コントロール・ポイントの検査員と交渉する学生



ソーラーカーと共にセレモニーゲートへ

けるという過酷なレースだった。チームは電気トラブルや車体破損、悪天候等々、全ての起こりうるトラブルをその都度学生や大学関係者、支援者の必死の工夫と努力で切り抜け、チャレンジャークラス13位、日本勢では2位という結果を勝ち取った。

### チーム発足からの主な戦績

- 2009年 学生PJの一つとして8名でスタート
- 2010年 WGC (ワールドグリーンチャレンジ) (国内)  
1号機で初出場、約600kmを走破
- 2011年 WGC準優勝、約900kmを走破
- 2012年 WGC優勝、ソーラーカー部門とチャレンジクラスで優勝、2冠制覇
- 2013年 BWSCチャレンジャークラス (速さを競う部門) 未完走  
2号機Practiceで参戦、BWSC世界大会に初参戦するも完走できず
- 2014年 WGC優勝、断トツの成績で優勝
- 2015年 BWSCクルーザークラス (実用性やエネルギー効率を競う部門) 準優勝  
3号機OWLで参戦、トップでゴールするも総合順位で準優勝
- 2016年 WGC優勝、大会新記録樹立、チーム史上初女

性ドライバー誕生

- 2017年 BWSCチャレンジャークラス 7位入賞  
4号機Wingで参戦、日本勢では2位
- 2018年 WGC優勝、悪天候の中、接戦を制し総合優勝
- 2019年 BWSCチャレンジャークラス 5位入賞  
5号機Eagleで参戦、日本勢では2位  
世界で初めてハイドロニューマチック・サスペンションをソーラーカーに導入した技術が評価され、オーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO) 公認の技術賞「CSIROテクニカルイノベーションアワード」を日本勢で初受賞
- 2021年 WGC準優勝 5号機Eagleで参戦、BWSCはコロナ禍で中止
- 2022年 WGC準優勝 5号機Eagleで参戦、IT技術を利用した戦略ツールの本格導入。
- 2023年 BWSCチャレンジャークラス 8位入賞、  
6号機Kogaで参戦、日本勢では2位
- 2024年 WGC 3位入賞 6号機Koga で参戦
- 2025年 BWSCチャレンジャークラス 13位  
7号機 Cygnusで参戦、日本勢では2位

今後の活躍を期待して注目して行きましょう。詳細は工学院大学ソーラーチームで検索。

## 高齢者川柳とわけのわからぬ我柳コーナー

頭の体操には効果抜群！ある一つの言葉、例えば「散歩」や「ボケ」等のキーワードに高齢者の「あるある」を結び付けて考えると面白い句も浮かんできます。紙と鉛筆さえあれば、時と場所を選ばずに楽しめます。出まわった川柳を是非投稿してください。実名で出すのが恥ずかしいという方はペンネームを添えてください。

ご投稿は、[y.waykey@hotmail.com](mailto:y.waykey@hotmail.com) でメールまたは、年会費払込取扱票の通信欄に記載してください。結構です。ただし、採用されても何も出ません。唯一人ニンマリして「ボケたかな 一人ニンマリ 眺める句」と周りから誤解されぬ様ご用心。

企業城下町	今朝も走る新幹線	母逝く	佐藤正吾
昭和の母	八十余年の光の軌跡	放ちつつ逝く	佐藤正吾
男なら	見栄切る言葉	死語化の世	寺岡光二
ハネムーン	買ったコケシに	ヒビが出て	寺岡光二
パチンコの	出玉止まらぬ	怖さかな	寺岡光二
大谷の	時給に負ける	我が年金	植木幸裕
暇あれば	また山行くと	米寿翁	古澤良夫
カワセミを	スズメと教える	若いママ	古澤良夫
碁将雀	ゴルフもやったが	全てへぼ	鴨賀祢宜
遺産無し	揉める事など	丸でなし	宇津聖和
孫連れて	台風一過	嗚呼シンド	本間弥奈
認知症	振りして食べる	つまみ食い	穴田ダメ代
今日用と	今日行く大事	貯筋する	張寿妙
ボケ防止	マジヤン負けて	脳卒中	敗津喜来
名を忘れ	顔も忘れて	あんた誰?	研坊翔
つきつきと	つまみを頼んで	食べきれず	残念無念
葬儀保険	どっちが手にする	三百万	嗚呼無常

# ☆☆☆千葉県支部会員の皆様に御礼とお願い☆☆☆

千葉県支部は下記の方々の多くの方で支えられています。ありがとうございます。これからもご支援、ご協力をお願いします。  
令和7年度会費納入者ご氏名（合計 ¥102,000） 敬称を省略させていただきます。

青木 壮 新井英伸 井坂隆一 岩本博行 植木幸裕 上田浩四郎 内山 太 大嶋茂幸 大日向 昭  
小高英二 小野 正 加藤弘造 亀田秀一 菊田征平 來住康弘 佐藤正吾 篠 欣克 新海昌美  
鈴木庸雄 鈴木 尚 添田峰夫 高橋正良 武田 昇 寺岡光二 長島 滸 成田忠志 長谷川 努  
浜田康裕 原田 寛 古川 洋 古澤良夫 宮坂一成 吉村 征

令和7年度ご寄付を頂いた方々（合計 ¥73,500） 敬称を省略させていただきます。

井坂隆一 植木幸裕 上田浩四郎 内山 太 大嶋茂幸 大日向 昭 小野 正 加藤弘造 菊田征平  
來住康弘 佐藤正吾 篠 欣克 新海昌美 鈴木庸雄 鈴木 尚 添田峰夫 高橋正良 武田 昇  
寺岡光二 長島 滸 古川 洋 古澤良夫

高齢者川柳

見納めの

花見と言いつつ

早や十年

## 2026年度 千葉県支部役員名簿

役職	氏名	学科	卒年	担当
支部長	植木 幸裕	機械	1975	名簿
副支部長	吉村 征	機械	1984	HP
副支部長	小高 英二	化学	1985	事業
会計	井坂 隆一	機械	1975	広報
幹事	小川 達也	化学	1987	事業
幹事	新井 英伸	電気	1991	事業
幹事	加藤 弘造	建築	1994	事業
会計監査	成田 忠志	化学	1978	
顧問	佐藤 正吾	建築	1960	
顧問	寺岡 光二	機械	1961	
顧問	來住 康弘	電気	1970	
顧問	新海 昌美	電気	1970	
顧問	横田 仁	機械	1973	

## 会報発行継続に皆様の絶大なご支援を!!

千葉県支部会報は支部会員のみならず、学園や校友会本部役員、全国支部長、近隣支部等に配布していて、全国の校友とも手を携え、共に活性化していこうということを目的に毎年1回発行しており、今回で30年目となりました。

これまでも校友会活動を通じて会員相互の親睦を深め、仕事や趣味などの面でも協力し合える環境や情報を提供し、これらの活動の楽しさ、すばらしさを手に取ってご覧いただけるよう努めて参りました。そして母校の近況等もお伝えし、いつまでも母校を見守って頂く一助となればと願っています。

このような情報誌である会報発行に是非ご支援をお願い致します。

千葉県支部の活動は会員各位の会費や寄付金等で賄われています。2026年度の会費、そしてもし頂けるのであればご寄付も合わせて同封の払込取扱票による納入をお願い致します。また、本誌掲載の高齢者川柳を募集しますので、払込取扱票の通信欄に記載してご投稿ください。

年会費：3,000円      ご寄付：任意

## § 編集後記 §

今年も会員の皆様から原稿が早々と集まりました。最初の原稿は、岩本様から2月上旬に届きました。お陰様で校正作業をゆっくりと落ち着いて行うことが出来ました。どうもありがとうございます。

岩本様の乗馬寄稿は、ペルー、アイスランド、トルコ、モンゴルと続き、今回はケニアでした。お会いした時に、10か国以上で乗馬体験をしているので、寄稿はまだまだ続けますとお話していました。楽しみにしておりますので、よろしく願い申し上げます。「近隣支部行事に参加して」シリーズ、「母校の近況」シリーズもご担当の方々から毎回原稿を頂いております。毎回頂いているので、計画的に紙面を作ることができ、助かっております。

振り返ってみますと、1月下旬～2月上旬の日本海側の大雪と1月23日の国会解散、2月6日～2月22日のミラノ・コルティナ冬季オリンピックで令和8年が始まりました。そして、日本と世界の政治、経済に関するニュースが毎日飛び込んできて、世の中に安定した空気感が以前より感じられなくなったような気がします。読者の皆様はどのように感じているのでしょうか。

マイナスの事ばかり考えても私の力では到底解決できないので、話題を大きく変えて千葉県の凄いことを調べてみました。なし、ネギ、落花生、マッシュルームの収穫量日本一、金目鯛の漁獲量日本一、醤油の生産量日本一などなど。しかし、何といても一番は、来場者数日本一の東京ディズニーランドですね。今年も千葉県を活性化させるために頑張りましょう。千葉県以外にも、もちろん!!!

千葉県支部はこれからも会員の親睦を深めるために、皆さんが参加したいと思える魅力のある行事を計画したいと考えております。会報をお読みの皆様、どうぞ行事に参加していただきたくよろしくお願い申し上げます。そして、行事の提案がありましたらぜひご連絡ください。連絡先はchiba@kogakuin.or.jpです。お待ちしております。

文責 会報担当 (機械工学科・1975卒) 井坂 隆一